

SNSの未来について



まずは現状の確認をしていきましょう！

◆社会全体のデジタルトランスフォーメーション

SNSの進化は、単なるコミュニケーションツールの変化に留まらず、社会全体のデジタルトランスフォーメーションを推進しています。

政府機関や自治体もSNSを活用し、市民とのコミュニケーションを強化。

例えば、日本の経済産業省や厚生労働省は、X(旧Twitter)やLINEを通じて、重要な情報の発信を行っています。



◆教育現場でのSNSの活用

教育の現場でも、SNSの利用が進んでいます。

教育内容の共有や、リモート授業のサポートとしての活用が進む中、学生同士のコミュニケーションの場としてもSNSが役立っています。



◆SNSのリスクと対策

SNSの進化と普及は、多くの利点をもたらしていますが、リスクも無視できません。フェイクニュースの拡散やプライバシーの問題など、新しい問題も生じています。



◆グローバルなコミュニティの形成

SNSの普及により、国境を越えたコミュニケーションが日常的に行われるようになりました。FacebookやX（旧Twitter）は、世界中の人々をつなぐプラットフォームとなっています。このような環境下で、新たなグローバルなコミュニティが形成されつつあります。





今後どうなるのか？



そもそも・・・



「人を集める」



「宣伝が出来る」



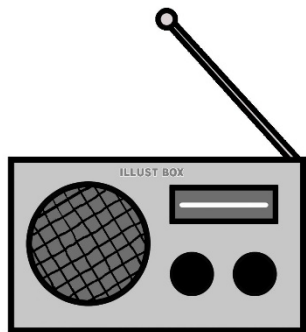
「売買が生まれる」

という仕組みは長年変わらない。

「人を集める」 集客・多くの人が見るコンテンツ



チラシ



ラジオ



TV (テレビ)



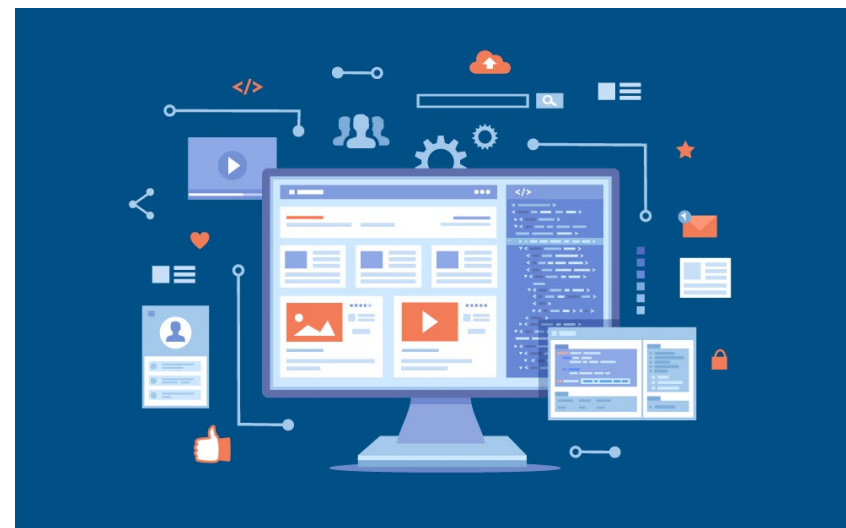
雑誌



ブログ



SNS



Webサイト

「宣伝が出来る」 どんな人々にどんな事を伝える



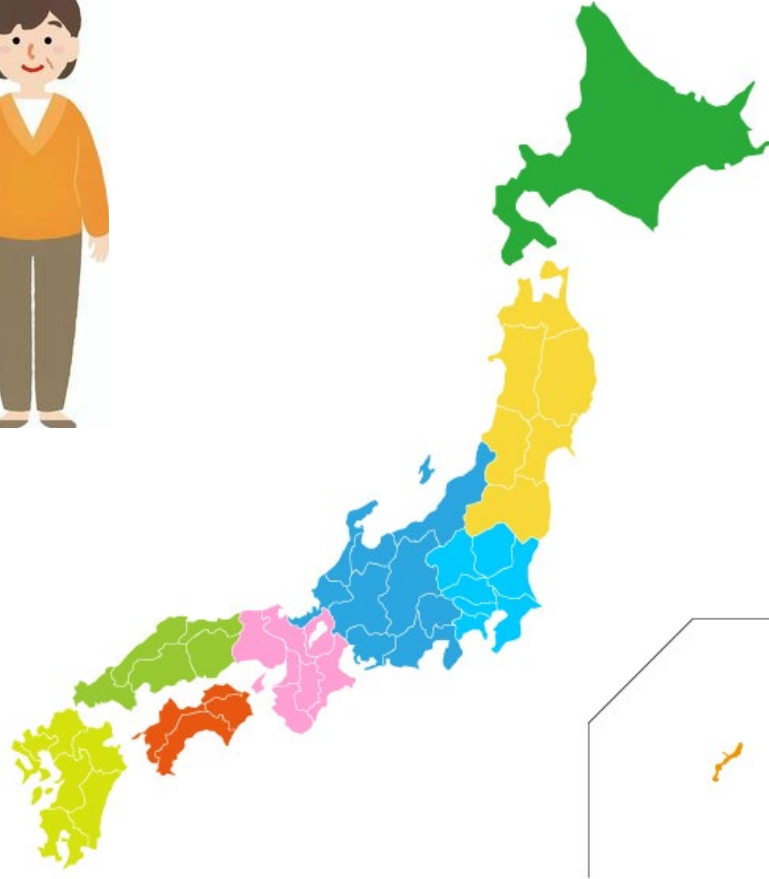
年齢は？



曜日は？



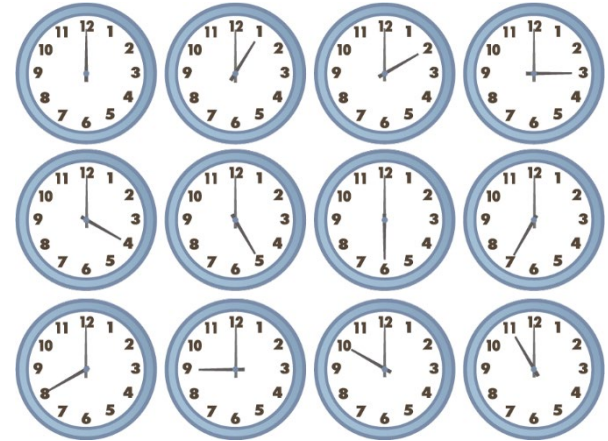
職業は？



エリアは？



性別は？



時間は？

「売買が生まれる」 人が動くことでビジネスが生まれる



コンテンツ作成費用



デザイン費用



印刷費用



配送費用



デバイスの端末費用



配信費用



スポンサー費用



保守費用



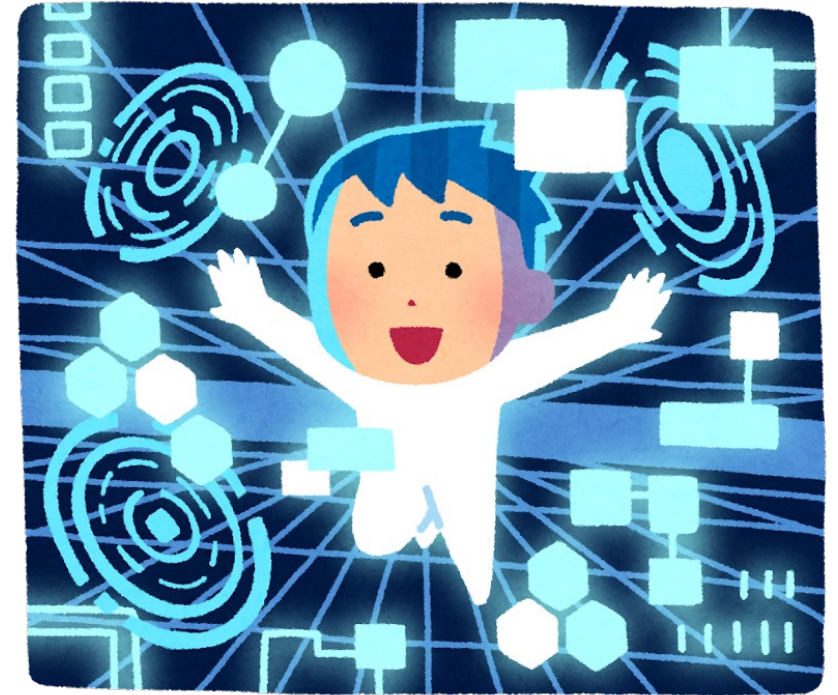
管理費用



そして、そのために必要な知識・技術として

未来のSNSはAIとの統合により、よりパーソナライズされたエクスペリエンスが提供される

未来のSNSは、拡張現実（AR）や仮想現実（VR）の技術を取り入れた新しいコミュニケーション形態が期待されています。
また、AIとの統合により、よりパーソナライズされたエクスペリエンスが提供されるでしょう。



※エクスペリエンスとは

エクスペリエンス (experience) は、英語で「経験」や「体験」を意味する単語です。
ビジネスやITの用語としては、特定の対象物（機器、システム、サービス、組織など）との関わりを通じて得られる体験の総体、およびそこから生じる印象や認識のことを指します。

AIとは、Artificial Intelligence（アーティフィシャルインテリジェンス）人工知能の略です。コンピュータがデータを分析し、推論、判断、最適化提案、課題定義や解決、学習などを行うことができます。

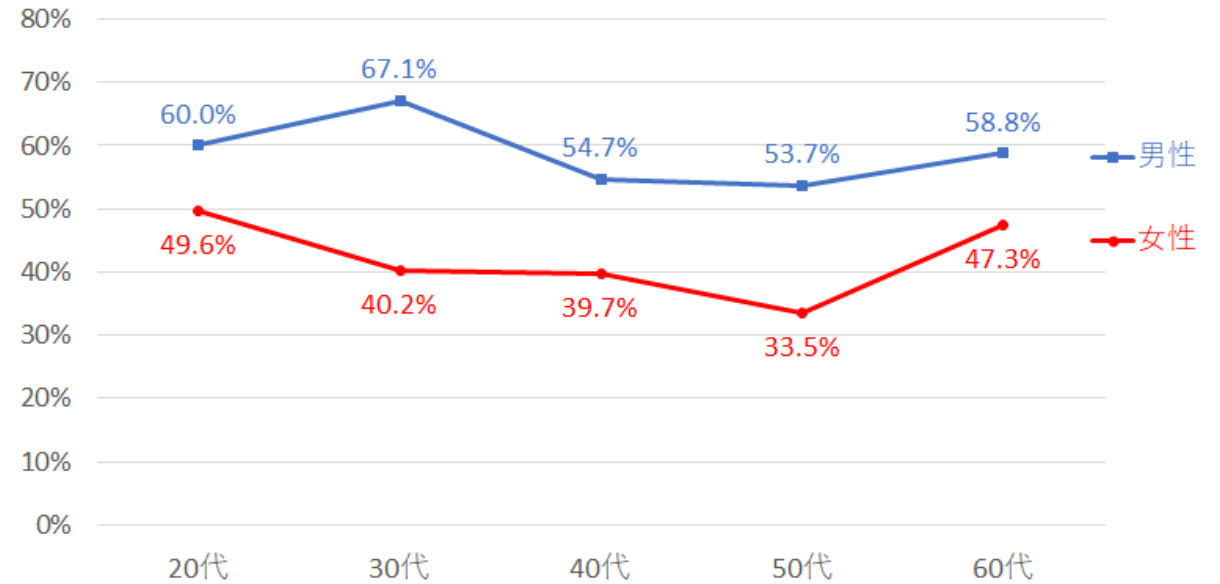
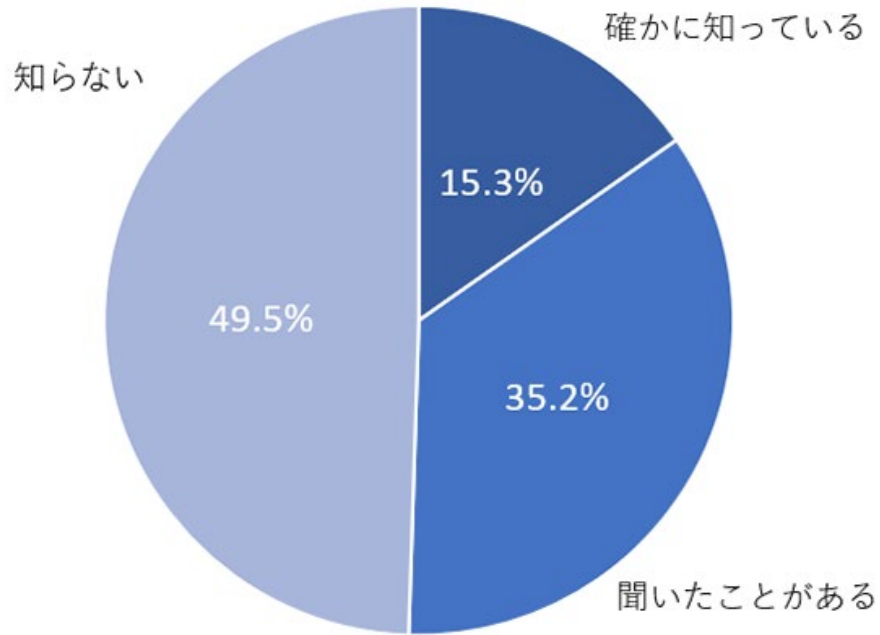
AIは、コンピューターサイエンスの一分野で、音声認識、意志決定、視覚など、通常は人間の知能に関連するタスクをコンピューターシステムが学習して実行することを可能にします。



AIとは、Artificial Intelligence（アーティフィシャルインテリジェンス）人工知能

生成AIの認知率

あなたは「生成AI」という言葉を知っていますか。(ひとつだけ)



出所：NRI「AIの導入に関するアンケート調査」(2023年5月)

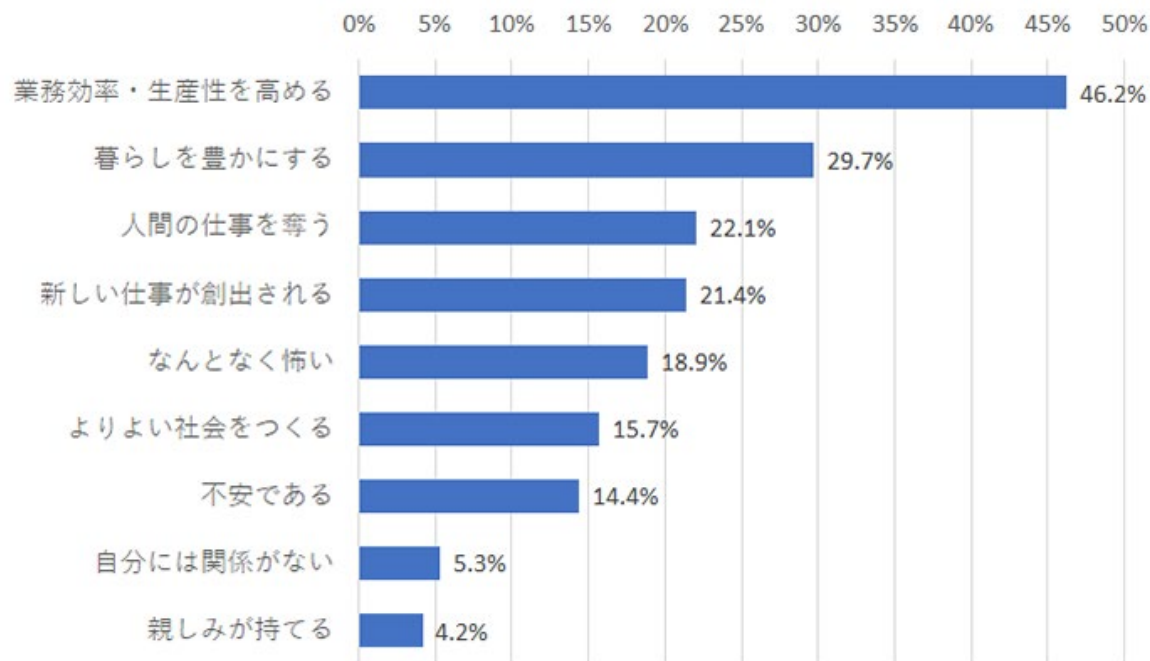
出所：NRI「AIの導入に関するアンケート調査」(2023年5月)

※AIについての認知度は・・・

認知率を性・年代別でみると、全体的に男性における認知率が高くなっていますが、男性の年代別認知率に大きな差は見られません。女性は、20代から50代にかけて、年齢が高いほど認知率が減少する傾向にあります。女性の60代では認知率が47.3%と、20代の49.6%に次いで高い結果となりました。

AI(人工知能)のイメージ

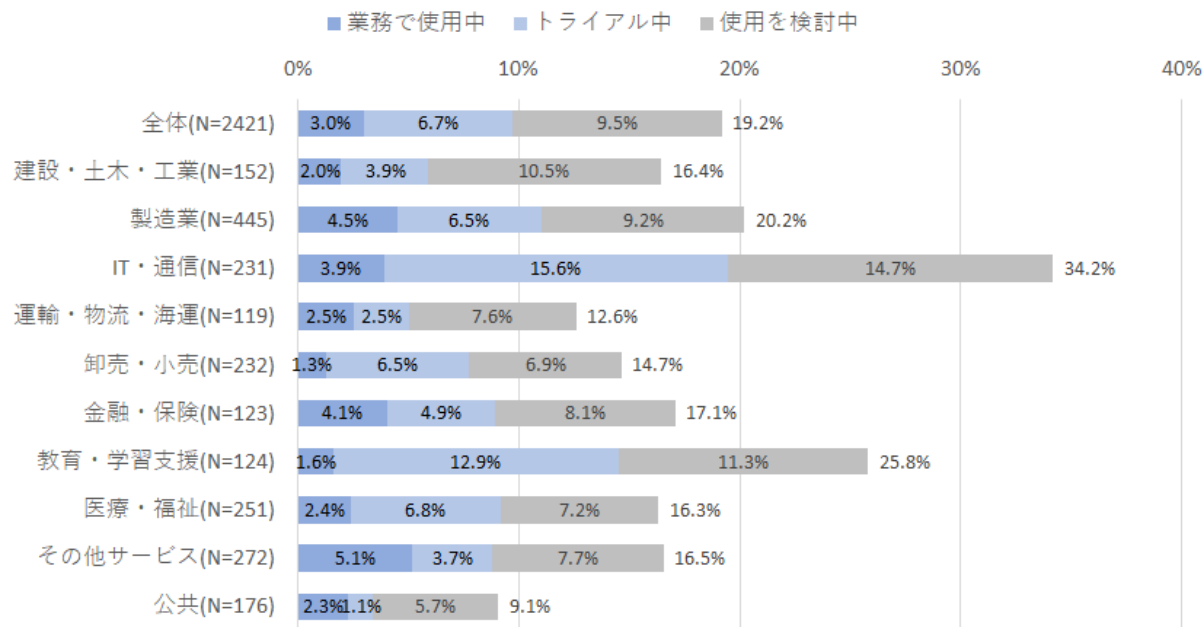
「AI(人工知能)」のイメージについて、あてはまるものをお知らせください。



出所：NRI「AIの導入に関するアンケート調査」（2023年5月）

生成AIの職場における導入・検討状況

ご自身の仕事における業務の中で、「生成AI」のツール・アプリ・ソフトを使っていますか。



出所：NRI「AIの導入に関するアンケート調査」（2023年5月）

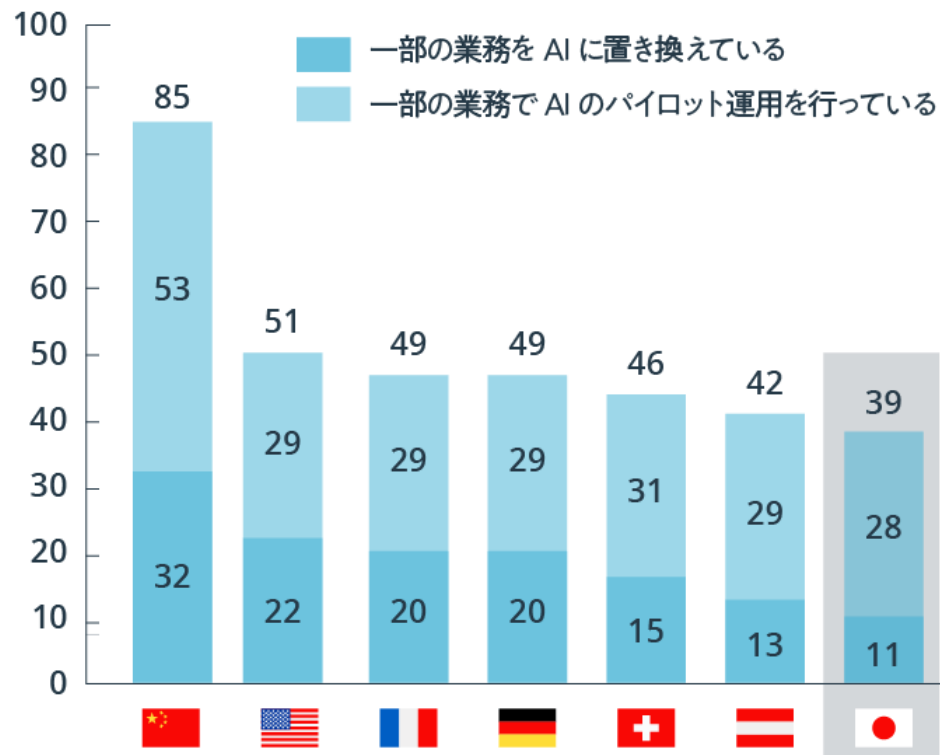
※ AIにはプラスとマイナスのイメージがある

今後、生成AIが浸透することで、具体的に業務でAIを使うようになると、AIがより身近になってイメージが変わる可能性もあるでしょう。漠然と「AIで仕事がなくなる」と恐れるのではなく、AIの利用が有効な場合はそれを活用し、人間がやるべき仕事を見極めていくことが重要です。

●日本は7か国の中で最下位

総務省が公表している「令和元年版情報通信白書」によれば、日本の「AIアクティブ・プレイヤー」の割合は、中国、アメリカ、ドイツ、フランス、スイス、オーストリア、日本の7か国の中で最下位です。

国別の割合



産業別の割合

	日本	他国平均
消費者向け産業	35%	50%
エネルギー	38%	67%
金融機関	42%	52%
ヘルスケア	23%	49%
産業財	32%	55%
テクノロジー／メディア／通信	60%	71%
合計	39%	55%





まずはAIに対して前向きな考え方で、
来る時代に取り組んでいきましょう！

まとめ

いま知っておくべきWebという
世界・SNSやAIをまず普段か
らたくさん活用してみましょう！

ビジネスモデルは変わらない

「人を集める」⇒「宣伝が出来る」⇒「売買が生まれる」

という仕組みは長年変わらない

テクノロジーの変化と時代の変化にアンテナを張る

そして、アイデンティティー、自己認識も
変化していくことが大切かもしれません。

